



し、白人も住んでいる—ということであった。これは、おそらく酋長の作り話であったが、カルティエはドンナコーナと部下のヒューロン・インディアン九人をフランスへつれて行き、そこで酋長の口からサゲネイ王国にはスペインやポルトガルが西インド諸島で見つけた財宝に負けないぐらいの宝がみつかるであろうと、国王フランソワ一世に話して聞かせた。サゲネイには、ちょうじ(香辛料に使われる)、ナツメグ、からし、オレンジもあるし、一本足の人間や足の代わりに羽根のはえた人間もいる、と酋長はつけ加えた。

この話を信用した国王フランソワ一世は、一獲千金の夢を描いてカルティエをサゲネイ征服へ派遣した。しかし、サゲネイはどこにも存在しない、幻の王国でしかなかった。一行はモントリオールの先でまたも早瀬にはばまれ、しかもケベックの近くに築いてあった居住地もインディアンに攻撃にさらされたため、フランスへひき返さざるを得なかった。その時、カルティエは金とダイヤモンドが入っているという樽を持ち帰ってきたが、調べてみると黄鉄鉱と石英だった。それが分かった時のカルティエの—そしてフランス国王の—失望は、想像を絶する。カルティエは東洋への北西航路も、またセゲネイ王国も発見できなかったのだ。しかし、カルティエの探検によって、ニュー・フランス、すなわち今日のケベックの基礎が築かれただけでなく、カナダを中心とする北アメリカの探検と開拓に大きな道が開かれた。

カナダにおける 国際障害者年

今年(一九七三年)は国際障害者年。カナダでは議会に障害者問題特別委員会を設け、障害者に対する一切の差別的撤廃などを具体的に提案した法案を作るなど、障害者に対する対策に取り組んでいる。

障害者年をめぐる動きをいくつか紹介しよう。

○雇用・移民省は民間企業による身体および精神障害者や雇用に関してきわめて不利な立ち場におかれているその他の人々の雇用継続を増進するため、試験的に給与助成を行うことに決めた。

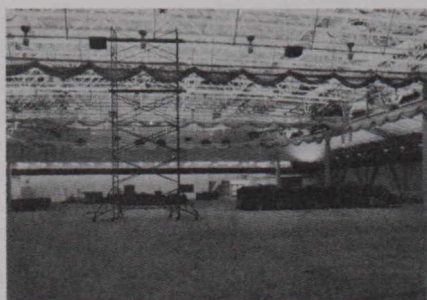
助成金の総額は一九八一—八二年度がおよそ二千五百万ドル(約四十五億円)、八一—八二年度が三千四百万ドル(六十一億円)。これにより、障害者二千三百人、雇用的に不利な立ち場にあるその他の人々(働く能力はあるが、過去二十六週のうち最低二十週は失業し、今後も就職の見込みがない人々)四千六百人が民間企業で職を得、または維持できることになるという。

政府は、例えば障害者の場合、最初の三か月間は給与の八五パーセント、次の六か月間は五〇パーセント、その次の六か月間は二五パーセントを雇用者に支払う。さらに、障害者用に職場を改造し、あるいは特殊の器具を購入した場合、最高五千ドルまで政府が負担する。

○雇用・移民省は、障害者に対する一般の人々の理解を深めるための全国キャンペーンを援助するため、カナダ障害者リハビリテーション・センターに十萬ドルを寄付する。

○カナダ公文書館では、国際障害者年を記念するため、一九七三年にカナダの写真家ジョン・リーブスが精神障害者施設のいろいろな活動を撮影した写真二十二枚を六月二日まで展示する。

○カナダ国際教育局と州障害者協会連盟では、八月二日から一週間、トロントでモビリティ・インタナショナル青少年祭りを催す。モビリティ・インタナショナルは一九七三年に創立され、英国に本部をおく組織で、旅行や交流を通じて障害者の社会同化を促進するのが目的。



トロントに建設中のこの建物は、障害者のためのスポーツ・センター。競技場や練習施設はもちろん、廊下、トイレ、エレベーターなども、すべて障害者用に作られている。この種のスポーツ施設は、世界でも類がない。

青少年祭りのテーマは「一緒に暮らそう」。二十数か国から三百人以上の代表が参加し、教育、住宅、スポーツ、交通、社会的発言などの分野における障害者の平等な社会参加について討議するほか、トロント近辺の諸施設を見学する。